目黒区いきものみどりみらい計画

～ささえあう生命（いのち）の輪（わ）　野鳥のすめるまちづくり～

【概要版】

「私たち」の計画

「私たち」には、子どもから大人までの目黒区民をはじめ、
目黒区で活動する事業者や学校、ボランティア、自治会、行政など、目黒区に関わる
すべての人が含まれています。
「私たち」一人ひとりが、本計画の将来像の実現を目指す「主人公」です。

令和８（2026）年３月
目黒区

この計画書概要版は視覚障害等のかたのために音声版もあります。
この冊子には音声コード「Uni-Voice」が右ページの右下、左ページの左下に印刷されています。
スマートフォン専用アプリなどで読み取ると、音声で内容が確認できます。

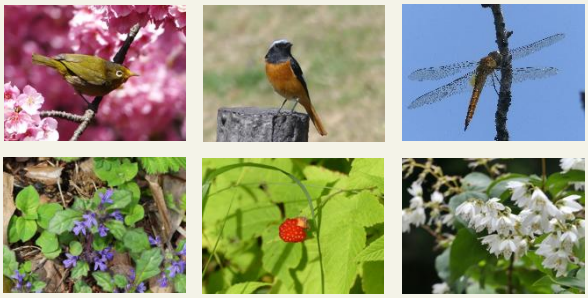
「私たちのまち めぐろ」のいきものとみどりの現状

目黒区生物多様性地域戦略
ささえあう生命(いのち)の輪(わ) 野鳥のすめるまちづくり計画

未来のすがたを「野の鳥の歌が聞こえるまち」として、まち全体にみどり豊かな環境をつくりだし、野鳥などの身近ないきものとのふれあいが広がり、生態系の仕組みを理解しながら自然と共生する暮らしを誰もが実践している社会を目指して、取組を進めてきました。

いきものの現状

- 「めぐろの森」を拠点に数多くのいきものが生息し、**3,695 種**のいきものが確認されています。
- 鳥類の年間確認種数は **50 種前後を推移し、指標在来生物種の分布率は増加傾向にあります。**



《 いきものの課題 》

みどりを守り増やす取組を地域の人たちや事業者、行政がみんなで取り組むことが求められています。特に、いきものの移動を助けるみどりづくりや、身近ないきものを観察し情報を共有するなど、生物多様性を考えた行動を増やしていく必要があります。

目黒区みどりの基本計画

身近な場所のみどりを守り、小さな鉢植え、一本の木も大切に育みながら、「みどりを感じる・みどりと暮らす・みどりに集う ～みんなが主役のみどりのまちづくり～」を基本理念とし、一人ひとりが主役となり「ともにつくる、みどり豊かな、人間のまち」の実現を目指して、取組を進めてきました。

みどりの現状

- 令和5(2023)年度の緑被率は 17.0%であり、2014 年度と比べて **0.3 ポイント減少しています。**
- 令和7(2025)年度の公園整備面積は 48.99ha、区民一人あたりの面積は 1.74㎡/人であり、**目標値(2.0 ㎡/人)を下回っています。**

《 みどりの課題 》

「みどり」を減少させない取組や、公園が不足する地域での整備、公園施設の見直しが求められています。 また、これからもみどりに関わる人材を増やすとともに、みどりに関わる活動により多くの区民が参加できるよう、参加の機会を増やしていく必要があります。

2つの計画を統合

「目黒区いきものみどりみらい計画」へ統合

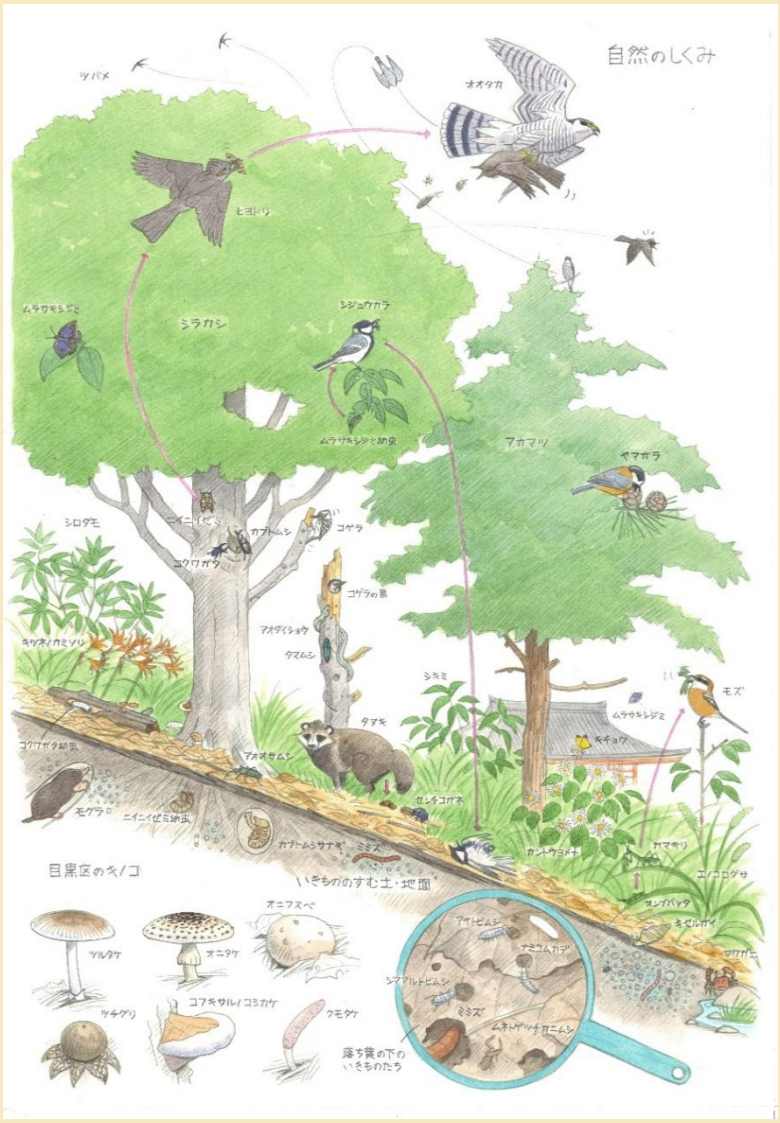
いきものもみどりも一緒に守り、みらいにつなげていくために、2つの計画の基本理念を継承し**「目黒区いきものみどりみらい計画」**としてまとめました。目黒区の自然と共に暮らしていく社会をめざす『野鳥のすめるまちづくり』に、私たち一人ひとりが主役となって行動するという大切な考えを受けつぎ、将来の姿（2050 ビジョン）を実現するための取組を、目黒区に住む人や働く人などいろいろな人と協力して進めます。

自然のしくみ（いきものとみどり）

「みどり」は、すべての「いきもの」が暮らすための土台であると同時に、「みどり」にある樹木や草地などもまた「いきもの」です。

このように切り離せない「いきもの」と「みどり」を、この計画では「いきものとその暮らす場所」として一緒にし、**「ささえあう生命（いのち）の輪（わ）」**と表します。

なお、「ささえあう生命（いのち）の輪（わ）」は、「生物多様性」を言いかえた言葉でもあります。



シンボルとしての野鳥

鳥類は生態系ピラミッドでは上位のいきもので、植物や昆虫等の小動物など、食物となるいきものの種類や数が豊富で、生息に適した環境があればあるほど、多くの種が生息・生育できます。

みどりの量の確保だけではなく、いきもののすめるみどりへと質の転換を図るシンボルとして、野鳥を位置づけます。

基本理念　みどりでつなぐ　いのちあふれるみらいのまち　めぐろ

将来像

野の鳥の歌が聞こえる　自然と共に暮らすまち

「自然と共に暮らすまち」とは、人の暮らしのそばに自然があるだけのまちではなく、自然の働きやいきものの命を理解し、それを大切にしながら日々の暮らしを営み、人と自然が支え合って生きる（共生）を実現しているまちを意味します。

目標

目標 1　みどりの風景をまもり、いきものにやさしさのある環境をつくります

《短期目標の指標》

- 野鳥の年間確認種数50種を維持し、70種を目指す
- 一人当たりの公園面積1.74㎡/人を2.0㎡/人に増やす

など

《基本行動》

誰もが楽しく利用できる公園

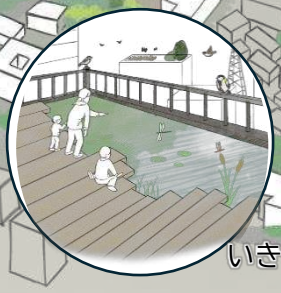
目標 2　自然とのふれあいを大切にしたくらしを未来に伝えます

《短期目標の指標》

- 「生物多様性」の言葉の認知度を54.1%から80%に増やす
- 生物多様性に配慮した行動を実践している区民の割合40%にする

《基本行動》

農の体験・継承



いきものに配慮した緑化

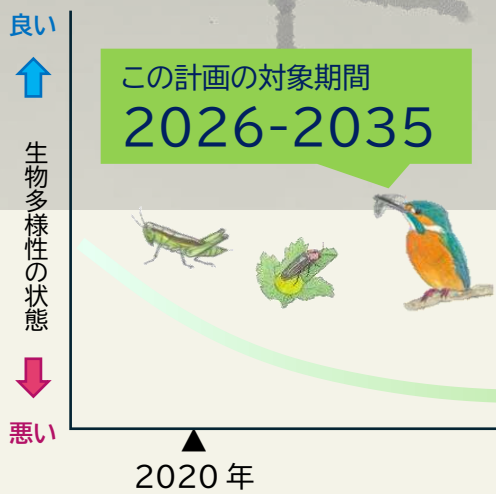
目標 3　すべての主体があらゆる活動で「ささえあう生命（いのち）の輪（わ）」の確保を目指した協力と連携を行います

《短期目標の指標》

- グリーンクラブ等の公園等で活動を行う登録団体数を116団体から120団体に増やす
- いきもの住民会議開催を継続する

など

《基本行動》



基本方針

方針 1 ネイチャーポジティブの実現

みどりの量と質の向上により、現状維持ではなく未来世代により良い自然環境を継承することを目指します。

方針 2 環境負荷の小さいまちづくり

気候変動や災害への対応、循環型社会の形成など複合的課題にみどりを通じて取り組み、区民にとって住みよい自然と調和した持続可能な都市モデルを実現します。

方針 3 Well-being の実現

将来世代にわたり区民一人ひとりの人生の質を向上させ、「幸福が実現するみどりのまち」として地域全体の魅力を高める施策を推進します。

方針 4 協働(パートナーシップ)の推進

異なる背景を持つ主体の協働により新たな発想や学びが生まれ、みどりを通じて共に考え行動する関係を育み、地域の課題解決力を高める仕組みづくりを目指します。

【将来像（2050 ビジョン）】
野の鳥の歌が聞こえる
自然と共に暮らすまち

2026 年(計画策定)　2035 年　2050 年(達成年)

私たちが協力して進めること（施策の体系）

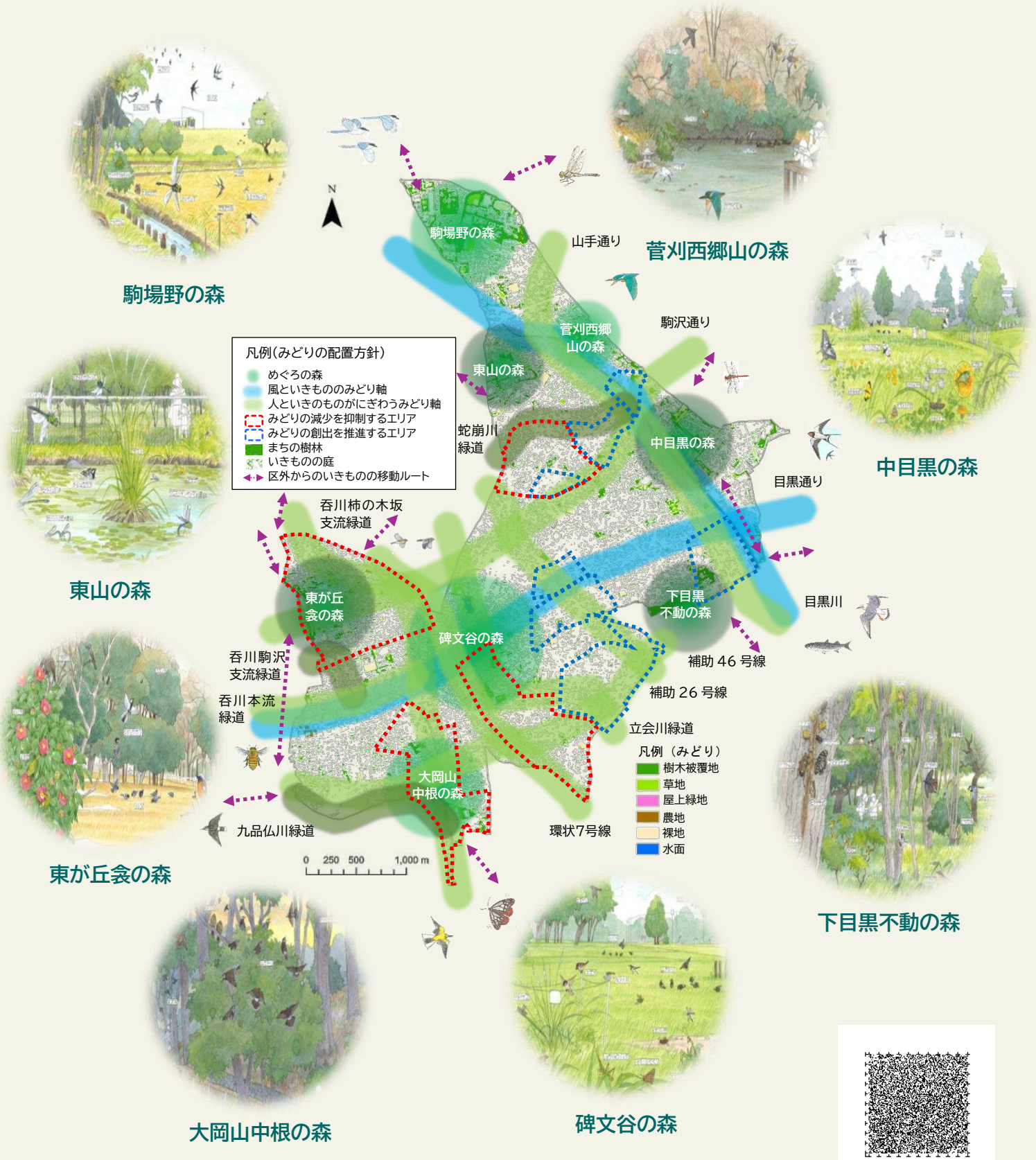
【基本方針1】ネイチャーポジティブの実現	1－1 みどりの保全と創出	施策 1 みどり豊かな住環境の形成に向けた取組の推進	★
		施策 2 未来に向けた樹木の保全の推進	★ 拡
	1－2 多様ないきものが生息できる環境の保全･創出	施策 3 拠点となるみどりの保全とネットワークの形成	★
		施策 4 生態系に配慮した緑化の推進	★ 拡
		施策 5 水環境の保全と親水空間としての活用	
		施策 6 希少生物の保護	
		施策 7 特定外来生物の防除対策等の普及啓発	
	1－3 めぐろのいきものを知る仕組みづくり	施策 8 いきものについて知る機会の充実	★ 拡
	1－4 区民や事業者の自発的な活動への支援の拡充	施策 9 区民が参加できる生物多様性保全活動の推進	★ 拡
		施策 10 気軽に参加できる環境配慮行動の支援の充実	拡
【基本方針2】環境負荷の小さいまちづくり	2－1 ゼロカーボンシティへの貢献	施策 11 脱炭素社会の実現に向けた取組の推進	★ 新
	2－2 循環型社会への貢献	施策 12 循環型社会の形成に向けた都市緑地の活用	
		施策 13 未来に残す「農の風景」	★
	2－3 災害に強いまちづくり	施策 14 みどりを活かした防災への取組	★ 拡
	2－4 ゆとりと活気あるまちづくり	施策 15 ゆとりある住環境の創出	
		施策 16 人が賑わい活気あふれる空間づくり	
【基本方針3】Well - being の実現	3－1 子育てを支えるみどりづくり	施策 17 子育てに利用しやすい公園の整備	★ 拡
	3－2 心身の健康を育むみどりづくり	施策 18 心身の健康づくりが行える公園等施設の充実	★
		施策 19 安心して使い続けるための公園の維持管理の推進	
	3－3 コミュニティ形成に役立つみどりづくり	施策 20 みどりで地域の人と人を繋げる取組の推進	拡
		施策 21 みどりを通じた活動の場の提供	★
	3－4 地域の魅力を引き立てるみどりづくり	施策 22 地域の景観や歴史、文化を伝えるみどりの保全と活用	
		施策 23 桜の保全	拡
		施策 24 農地を通じたみどりとの触れ合い	★ 拡
【基本方針4】協働（パートナーシップ）の推進	4－1 情報の発信･共有と連携の強化	施策 25 積極的な情報発信と共有	★ 拡
	4－2 協働を促すしかけづくり	施策 26 区民や事業者の参加を促す仕組みづくり	★ 拡
		施策 27 多様な人が活躍できるみどりの活用	★ 新
		施策 28 学びの場の多様化による人材育成の推進	★ 拡
		施策 29 民間の活力を活かした魅力あるみどり空間の創出	★ 拡

★： 重点的取組（特に力を入れる取組）を示しています。
新： 今回の改定で新たに追加した新しい施策を示しています。
拡： 前回計画から拡充（もしくは継続）した施策を示しています。

めぐろの森を中心にみどりをつなげます（みどりの配置方針）

目黒区には「めぐろの森」という大きなみどりの拠点が 8 つあり、その拠点を中心にみどりを保全し、質を高めます。また、目黒川や街路樹等を「みどりの軸」としてつなげ、周辺の住宅地等のみどりとともに保全・創出することで、みどりが持つ環境保全、レクリエーション、防災、景観形成などの様々な機能が目黒区全体で効果的に発揮されます。

これらのみどりのネットワークは、いきものにとって大事な移動経路としての役割もあり、みどりを保全していくことで、いきものの生息・生育環境の保全にもつながります。



私たちができること（一人ひとりの行動）

私たちにできることをチェックリストとしてまとめたものです。いくつできているか☑してみよう！

STEP1　いきものやみどりについて知る、気づく

- ☐ 公園や緑道等を訪れ、身近なみどりの大切さを感じます。
- ☐ 花見や菖蒲湯、七夕やお月見など、季節の行事を楽しみます。
- ☐ 身近なみどりや水辺に目を向け、そこに様々ないきものがいることに気づきます。
- ☐ 新聞やウェブ、SNS などにより、身近ないきものやみどりの情報を知ります。
- ☐ まちに出かけ、みどりに関わる歴史、文化、農などのめぐろの原風景に気づきます。

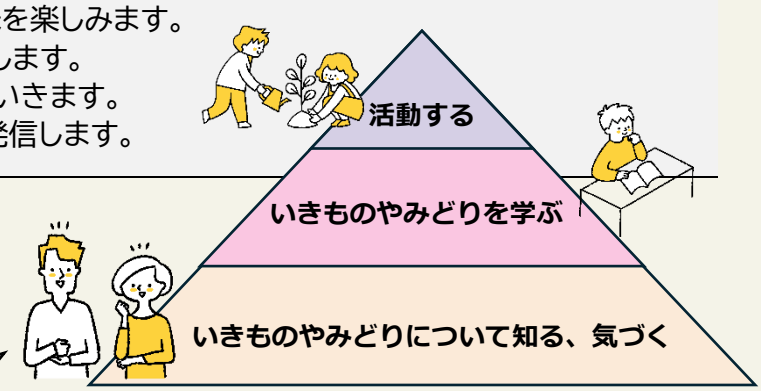
STEP2　いきものやみどりを学ぶ

- ☐ 自然保護活動が行われている公園を訪れ、いきものやみどりの保全について学びます。
- ☐ 駒場野公園自然観察舎や中目黒公園花とみどりの学習館等で開催される講座に参加し、積極的にいきものやみどりについて学びます。
- ☐ いきもの調査等に参加し、身近ないきものやみどりに触れ、自然の大切さを学びます。
- ☐ 外来生物について、生態系への影響や対策方法を学びます。
- ☐ 屋敷林や社寺林等を訪れ、みどりを通して地域の歴史・文化を学びます。
- ☐ 地域の農業イベント等へ参加し、都市の農について学びます。
- ☐ 地域の防災訓練等のイベントに参加し、災害時の公園の活用方法について確認します。

STEP3　活動する

- ☐ いきものが訪れる、花や実がなる植物などを庭やベランダなどに植え、身近なみどりを守り、増やします。
- ☐ 自然通信員等に参加し、身近ないきものを観察・情報を共有します。
- ☐ 公園や緑道を散歩し、健康器具やスポーツ施設を使って、健康的な運動習慣を作ります。
- ☐ 公園で開催される講座や「トライアルボランティア」などに参加し、いきものやみどりに関わる楽しさを体験します。
- ☐ グリーンクラブや公園活動登録団体などのボランティア活動に参加します。
- ☐ 東京産や近郊でとれた野菜や果物を選び、旬の味を楽しみます。
- ☐ 食品ロスを出さないなど、エシカル消費[注)]を工夫します。
- ☐ 学んだことを周りの人に伝え、活動の輪を広げていきます。
- ☐ 身近ないきものやみどりの観察・情報を共有し、発信します。

注)エシカル消費とは、人や社会、環境に配慮した消費行動のこと



区民参加の3ステップ

- 区民や事業者などいろいろな主体がパートナーシップを築き、協力していきものやみどりの取組を進めることで、本計画のめざす将来像の実現につなげます。
- **「区民参加の3ステップ」**を基本に、目黒区では講座や自然体験などの学びの場を整備し、参加や自発的な行動を後押しする仕組みを充実させて協働の輪を広げていきます。

目黒区いきものみどりみらい計画　～ささえあう生命（いのち）の輪（わ）　野鳥のすめるまちづくり～【概要版】
令和 8(2026)年3月　初版第一刷発行　　令和 8(2026)年4月　初版第二刷発行
発　行　　目黒区
編　集　　目黒区都市整備部みどり土木政策課
　　東京都目黒区上目黒二丁目 19 番 15 号
電　話　　03(5722)9745(みどり土木政策課)
ＦＡＸ　　03(3792)2112
印刷・製本　　株式会社勝村印刷所

本編はこちら